Osaka University Knowledge Archive

Title	外国人母親の社会的ネットワーク構築に関する研究 : 日豪における就学前教育サービスの視座から
Author(s)	山中, 早苗
Citation	大阪大学, 2014, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/34004
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

〔　題　　名　〕外国人母親の社会的ネットワーク構築に関する研究
－日豪における就学前教育サービスの視座から－

学位申請者　山中　早苗

本研究は、日本（大阪府豊中市）およびオーストラリア（ビクトリア州メルボルン）で生活する外国人母親の社会的ネットワーク構築過程を明らかにし、子育てを通じて母親が利用する就学前教育サービスが、社会的ネットワーク形成と子育てに対するサポートの獲得に果たす役割を検証することを目的としている。移住は母国で培った社会的ネットワークから切り離され、言葉や文化の異なる環境に身を置くストレスを伴う。子育ての助けを親族から得られない場合、外国人母親は移住と子育てによる二重のストレスを抱えることになる。

第1章の序論では、本研究の実施に至った背景と問題意識について述べた後、先行研究に対する本研究の位置づけを行った。日本とオーストラリアでは、外国人の母親は身近にサポートを得にくいなどの問題を抱えながら、子育てを行っている。しかし、移民の社会的ネットワークに関する先行研究をみると、移住先での社会的ネットワーク構築過程に着目した研究は非常に少ない。一方、子育てと社会的ネットワークを関連させた研究は、その国で生まれ育った母親を対象としたものがほとんどである。外国人母親の社会的ネットワークは、就学前教育サービスを通じて広がるという報告がある一方で、外国人母親とホスト社会の親との関係作りは難しいという指摘もある。日本とオーストラリアは移民受け入れ状況が大きく異なっており、移民の社会的ネットワークの様相を単純に比較することはできない。しかし、本研究は子育てという母親独自の共通体験に着目し、社会的ネットワーク形成過程を就学前教育サービスの利用を通じた母親個人のミクロな視点から捉えることを試みた。外国人母親に対するよりよい子育て支援を議論するにあたり、両国における母親の経験に即した、相互に有効な示唆を与え合うことが可能になるものと考える。

第2章では、社会的ネットワークに関わる理論である社会関係資本（ソーシャルキャピタル）とソーシャルサポートの概念および実証研究について整理を行った。社会関係資本は社会的ネットワーク、信頼、互酬といった要素を持ち、個人だけでなく、より広範なコミュニティや社会において蓄積される資源である。一方、子育てに対する具体的なサポートの形態として、情緒的サポート、道具的サポート、情報的サポート、コンパニオンシップ、評価的サポートの5つのソーシャルサポートが存在する。就学前教育サービスを対象に、子育てと社会関係資本を関連させた実証研究は少ないが、親同士の社会的ネットワーク、子育てに対する学びやサポートを社会関係資本ととらえ、子どもの発達や親の主体的な子育てに寄与するものと結論づけられている。しかし、移民は同国人同士の関係にとどまりがちで、女性は家庭の外で広い社会的ネットワークを構築することが難しいなど、外国人であり、女性であることにより、社会関係資本の利用にあたって不利な立場に置かれやすいことが指摘されている。

第3章では、調査地の背景として、日本とオーストラリアにおける外国人の受入れの変遷を、統計データをもとに概観した。両国とも家族形成や家族移住の増加に伴い、出産、子育て期にある女性移住者が増加している。日本では外国人の定住化が進み、多文化共生社会実現に向けた取り組みが自治体ベースで行われている。しかし、就学前教育の現場では、情報提供、言語、習慣面への配慮が課題となっている。一方、オーストラリアは多文化主義政策を国策とし、アジアなどさまざまな国から毎年一定数の移民を受け入れている多文化国家である。オーストラリアの多文化主義政策は、移民問題をオーストラリア人全ての問題として取り組む姿勢が貫かれていることが特徴である。

第4章では、本研究の調査方法および調査対象地、対象者の選定を含む研究デザインについて述べた。調査地は豊中市、メルボルンとも保育所、幼稚園に加え、母子交流型プログラム（豊中市では国際交流協会主催の外国人母子交流プログラム、メルボルンではプレイグループ）の3つのサービスを設定し、それぞれのサービス内で参与観察および外国人母親と専門家に対するインタビュー調査を実施した。質的調査方法の一つであるインタビュー調査を用いたのは、外国人母親の社会的ネットワーク構築に関わる経験を詳細に把握するためである。また、就学前教育専門家に対しても、外国人母親の社会的ネットワークを促進するための配慮についてインタビュー調査を実施した。

第5章では、大阪府豊中市とオーストラリアメルボルンにおいて、3種類の就学前教育サービスで実施した参与観察の結果を示した。活動中の親同士の交流場面は、豊中市、メルボルンとも、母子交流型プログラム、幼稚園、保育所の順に多かった。豊中市の母子交流型プログラムである国際交流協会における活動には、子育て中の日本人がボラン

ティアとして参加していた。そのため、外国人母親と日本人母親の相互交流が起こりやすく、外国人母親の問題やニーズにも即時に対応することができていた。メルボルンの母子交流型プログラムである日本人プレイグループは、同国人母親を対象としており、母親は子ども達の遊びを見守りながら、母語で会話や情報交換を行っていた。保育所や幼稚園は子どもの保育・教育が主体となった場であり、園内での親同士の交流は保護者参観など特別な機会に限定して生起していた。しかし、幼稚園は子どもの登園、降園時間が決まっているため、保育所と比較すると、保護者同士が顔を合わせる場面が毎日一定に維持されていた。

第6章および第7章では、外国人母親の社会的ネットワーク構築過程と就学前教育サービスの利用を通じたネットワークの実際を把握するという問題意識に基づき、豊中市とメルボルンで実施した外国人母親と就学前教育専門家に対するインタビュー調査の結果を示した。第6章の豊中市では、外国人母親の社会的ネットワークは、結婚以前、結婚後から子育て開始以前、子育て開始後の時期において変化していくことが見いだせた。ネットワークの変化には個人差があるものの、就職・進学、引っ越し、出産に伴う離職や子育てがそのきっかけとなっていた。また、社会的ネットワークは、日本語学習の場や大学、職場、同国人の集まりへの参加、夫からの友人紹介などを通じて形成され、子どもを持つことは就学前教育サービスのなかで母親同士の関係性を新たに構築する要素となっていた。しかし、豊中市調査の特徴として、幼稚園のなかで日本人母親のグループに溶け込むことに不安を覚える外国人母親が多く存在した。こうした不安の背景には、言葉や文化の違いだけでなく、外国人に慣れていない日本人側の態度が関係していることが示された。

第7章のメルボルン調査でも、外国人母親の社会的ネットワークは結婚以前から子育て開始後にわたる時期において、異なる様相をみせていた。社会的ネットワークは、英語学習の場や大学、職場、夫からの紹介などを通じて形成され、子育てに際して就学前教育サービスを利用するなかで、親同士の社会的ネットワークが構築されるなど、豊中市と類似の特徴がみられた。そして、高い英語力、学歴、専門的資格を持つ母親は仕事を持ち、オーストラリア人との広い社会的ネットワークを持つ傾向にあった。対照的に仕事を持たない母親は、子育てを通じた同国人母親の関係を密に形成する傾向にあることが見いだせた。子育てを介して母親同士が親しくなるためには、出産直後から利用できる母子交流型プログラムである、プレイグループやマザーズグループへの参加が重要な鍵を握っていた。

第8章では、外国人母親の社会的ネットワーク形成に影響を及ぼす要素、就学前教育サービスの形態と社会的ネットワークとの関連、子育てに資する社会的ネットワークの特徴について考察し、就学前教育サービスが外国人母親の社会的ネットワーク構築と子育てに対するサポート獲得に果たす役割を明らかにした。

外国人母親の社会的ネットワークは多様な機会への参加を通じて構築される一方、女性が実際にこうした機会を社会的ネットワークの形成に生かせるかどうかは、言語力や学歴など、個人の持つ属性が影響を及ぼしていた。しかし、子どもを持ち、母親としての役割が付与されることで、外国人女性は、子ども同士の交流を通じて親同士もつながることのできる、就学前教育サービスという新たな社会的ネットワークを構築する機会にアクセスできていた。就学前教育サービスは、母親にとって子どもと共に参加できる平等に開かれた機会であり、そのなかで形成された母親同士の信頼を伴う社会的ネットワークは、子育てに必要なさまざまなサポートを相互にやりとりする社会関係資本として機能していた。同国人母親とのつながりは、母語や母文化を子どもに継承し、子育ての肯定感を高める働きを持ち、ホスト社会の母親との関係は、さまざまな情報やホスト国の子育て観への学びをもたらしていた。

しかし、就学前教育サービスにおいて、親同士の社会的ネットワーク形成が不十分な現状があることも明らかとなった。保育所・幼稚園では、外国人母親が参加しやすい交流機会を設定するなど、細部における外国人母親への配慮が求められていた。ホスト国の母親と外国人母親の交流を促進するためには、外国人と交流することに積極的なホスト社会の母親の活用や、子どもの友達関係を通じて親同士をつなぐ工夫など、意識的な仕掛けが必要となっていた。また、就業している外国人母親は、生活するのに時間的にも精神的にも手一杯で、親同士の交流機会を逸していた。

子育てには同国人だけでなく、ホスト社会の人々を含む多様な社会的ネットワークが重要となる。就学前教育専門家が親同士の関係作りを支援するにあたっては、外国人母親とホスト社会の母親との交流を意識的に深めていくような取り組みを実施することが、今後ますます求められている。

本研究の意義は、外国人母親の社会的ネットワーク形成を、子育てという視点からとらえ、就学前教育サービスが子育て中の外国人母親の社会的ネットワーク形成に果たす役割と阻害要因を明らかにした点にある。母親の言語能力、就業状況、ホスト国の母親との交流機会の有無などの要因がどのようにして移民女性の社会的ネットワーク構築の過程に影響を及ぼすかを、ミクロな視点から捉えることにより、外国人母親の子育て支援に対して、新たな視座を提供できた。

様式7

論文審査の結果の要旨及び担当者

（　山中　早苗　）		
論文審査担当者	（職）	氏　　名
	主 査　　教　　授	中村　安秀
	副 査　　教　　授	澤村　信英
	副 査　　准教授	石井　正子

論文審査の結果の要旨

本研究は、日本（大阪府豊中市）およびオーストラリア（ビクトリア州メルボルン）で生活する外国人母親の社会的ネットワーク構築過程を明らかにし、子育てを通じて母親が利用する就学前教育サービスが、社会的ネットワーク形成と子育てに対するサポートの獲得に果たす役割を検証することを目的としている。移住は母国で培った社会的ネットワークから切り離され、言葉や文化の異なる環境に身を置くストレスを伴う。子育ての助けを親族から得られない場合、外国人母親は移住と子育てによる二重のストレスを抱えることになる。

第1章では､社会的ネットワーク形成過程を就学前教育サービスの利用を通じた母親個人のミクロな視点から捉える試みであるという本研究の背景と問題意識を論じ、第2章では、社会的ネットワークに関わる理論である社会関係資本（ソーシャルキャピタル）とソーシャルサポートの概念および実証研究について整理を行った。第3章および第４書では、日本（豊中市）とオーストラリア（メルボルン）における外国人受入れの変遷及び調査対象地のプログラムについて論じた。第５章から第７章において、保育所、幼稚園、母子交流型プログラムなどにおける参与観察および外国人母親と就学前教育専門家に対するインタビュー調査結果を分析した。

第8章において、外国人母親の社会的ネットワーク形成に影響を及ぼす要素、就学前教育サービスの形態と社会的ネットワークとの関連、子育てに資する社会的ネットワークの特徴について考察し、就学前教育サービスが外国人母親の社会的ネットワーク構築と子育てに対するサポート獲得に果たす役割を明らかにした。外国人母親の社会的ネットワークは多様な機会への参加を通じて構築される一方、女性が実際にこうした機会を社会的ネットワークの形成に生かせるかどうかは、言語力や学歴など、個人の持つ属性が影響を及ぼしていた。就学前教育サービスは、母親にとって子どもと共に参加できる平等に開かれた機会であり、そのなかで形成された母親同士の信頼を伴う社会的ネットワークは、子育てに必要なさまざまなサポートを相互にやりとりする社会関係資本として機能していた。一方、保育所・幼稚園では、外国人母親が参加しやすい交流機会を設定するなど、細部における外国人母親への配慮が求められていた。子育てには同国人だけでなく、ホスト社会の人々を含む多様な社会的ネットワークが重要となる。就学前教育専門家が親同士の関係作りを支援するにあたっては、外国人母親とホスト社会の母親との交流を意識的に深めていくような取り組みを実施することが、今後ますます求められている。

本研究の意義は、外国人母親の社会的ネットワーク形成を、子育てという視点からとらえ、就学前教育サービスが子育て中の外国人母親の社会的ネットワーク形成に果たす役割と阻害要因を明らかにした点にある。母親の言語能力、就業状況、ホスト国の母親との交流機会の有無などの要因がどのようにして移民女性の社会的ネットワーク構築の過程に影響を及ぼすかをミクロな視点から捉えることにより、外国人母親の子育て支援に対して新たな視座を提供できた。